

マーケットの動き（2024年7月15日～7月19日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。週前半は米国小売売上高の上振れ等がありながらも金利低下が進み、17日には一時4.14%まで金利低下しました。その後、米国長期金利が4ヵ月ぶりの低水準をつけたこともあり反発し、利益確定売りや持ち高調整の売りが出やすく米国長期金利は上昇しました。

欧州国債市場は、英国金利がほぼ横ばいだった一方、ドイツ金利は低下しました。

投資環境見通し（2024年7月）

長期金利は、米国では高止まり、欧州（ドイツ）では低下

米国：雇用やインフレ関連の経済指標の内容を受けて金利上昇圧力は和らいでいますが、家計の資産効果が金利上昇圧力の再燃につながる可能性もあり、長期金利は政策金利とともに高止まるとみています。

欧州：ECB（欧州中央銀行）による追加利下げ観測が残る中、欧州地域における政治的な先行き不透明感を背景に、ドイツ長期金利は低下するとみています。

	7月19日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.24	0.06	0.02	0.10	0.50
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	617.24	▲0.44%	0.49%	7.79%	14.57%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202407_outlook.pdf

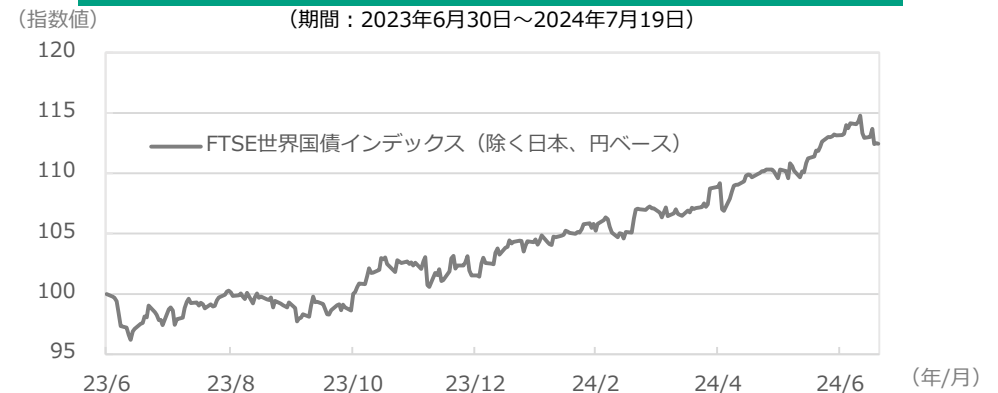
主要国国債利回りの推移

（期間：2023年6月30日～2024年7月19日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2023年6月30日～2024年7月19日）



※2023年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>